



② 冬まきダイコンに挑戦

マルチ、トンネル栽培必要

ダイコンを1月の今頃まくと、4月に収穫が出来ます。ただし、ダイコンなど多くのアブラナ科野菜は低温で花芽を作り、その後の高温長日で花芽が成長してしまうので、マルチとトンネル栽培が必要になります。従って晩抽性で低温伸長性に優れた品種を選ぶ必要があります。

①畑の準備

種まきの2週間ぐらい前に、苦土石灰を1平方メートルあたり150グラム全面に施し、20センチ位の深さまで耕します。1週間後、堆肥を1平方メートルあたり3キログラム、化成肥料（成分15：1：15）は1平方メートルあたり100グラムを施し、幅60～70センチのうねを作ります。この時期は

寒いので透明マルチを用いると地温の上昇効果があります。

②種まき・トンネル設置

条間40センチ、株間25センチで1カ所5、6粒の種を点まきし、覆土して軽く押さえませます。種をまいたら、すぐにトンネルを掛けます。トンネルで昼間の温度が25度以上になると、夜の低温でできた花芽が消滅して、とう立ちしなくなります。

③間引き

1回目は子葉が開いたとき「正ハート形」のものを残して、1カ所3、4本にします。2回目は本葉が2、3枚のころ、成長の早いものや遅いものを間引き、1カ所2本にします。3回目最終間引きで、1カ所1本にします。

④追肥・トンネル管理

追肥は2、3回目の間引きのあと、マルチに穴をあけて株間に1平方メートルあたり追肥用化成肥料（16：0：16）30グラムを施します。また、3月に入るとトンネル内の温度が上がるので、朝夕にトンネル裾の開閉を行い、高温障害を防ぎましょう。

⑤病害虫防除

病気は、軟腐病、モザイク病などが発生します。害虫では、ウイルス病を媒介するアブラムシ（ヌイ）やアオムシ、シンクイムシ、キスジノミハムシなどが発生

します。シンクイムシの発生が多い時には、最終間引きを遅らせましょう。

⑥収穫

根の直径が7～8センチになったら収穫します。冬まき春採りは、種まき後90日ぐらいです。

（鹿児島市都市農業センター）



平成31年1月10（木）／南日本新聞